

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1118 2013年5月号

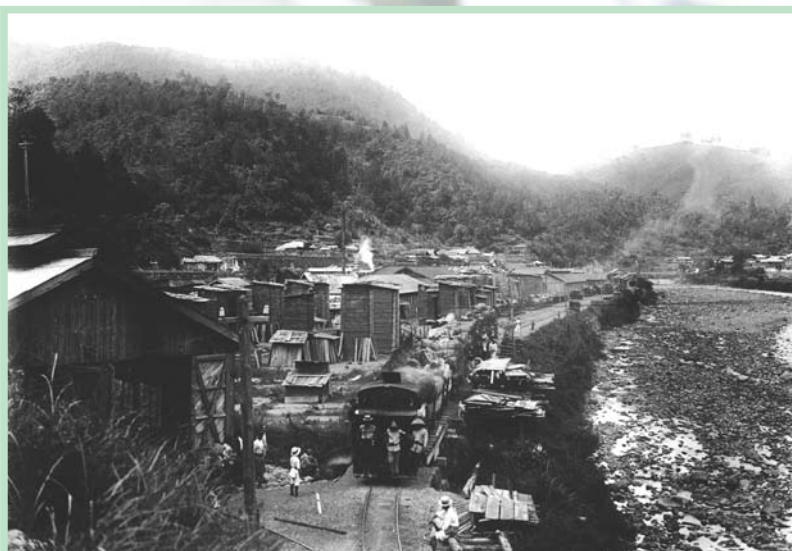
## 魚梁瀬森林鉄道の写真

～マスコミも注目～

【詳細2頁】



テレビ局の取材を受けている新木局長



大正時代の馬路製材所附近





明神口橋



る予定となっています。  
レビ局の取材を受け、大きく取り上げられました。な  
お、森林鉄道の写真は、四  
国森林管理局のHPの「思  
いのない珍しい写真があ  
い出の森林鉄道」コーナ  
ー」とのことで新聞社、テ  
でご覧頂きます。

昨年、局長室の書棚に大 見ると、「森林鉄道」「名  
正時代から昭和初期にかけ 木、伝説木」「石積み の堰  
ての写真アルバムが残され 堤(ダム)による災害復旧」  
ていることに新木局長が気 など、当時を振り返る大変  
が付きましました。 貴重な写真が含まれていま

魚梁瀬森林鉄道で犬に空の  
トロリー(台車)を曳かせ



写真について説明中の新木局長

す。中には、カビ  
などで劣化が進ん  
でいるものもあり、  
このままではせつ  
かくの歴史的資料  
が損なわれてしま  
うことから、デジ  
タル化による保存  
を図ることとしま  
した。  
これらの中には、  
路村の上治村長から、ぜひ  
地域おこしの展示に使いた  
いとこの依頼があり、森林鉄  
道に関する七四枚の写真  
データを提供し、馬路村で  
は七月頃、役場内で展示す

五月九日、仁淀川町立池 最初に、「森林がはたす  
川中学校の一年生一七名を 役割」と題して、森林の働  
対象に森林教室と間伐体験 きと大切さ、森林を適正な  
を行いました。 な状態に保つためには、適  
切な手入れで適切な伐採を  
仁淀川町のかつての基幹 行い、搬出し、上手に使う  
産業であった林業を、森林 「森林づくりの環」と「木  
体験を通して学習するため づかいの環」が必要である  
の宿泊合宿の一環として依 ことを説明しました。  
頼があり、実施したもので  
す。  
次に校庭に出て、パネル

森林の働きについて講義



と水の浸透実験装置を使って、森林の保水能力と水の浄化作用等について学びました。装置にセットした校庭の土と森林の土それぞれに水を注ぎ、そこから出てくる水の流れ方や濁り方の違いに、生徒や先生から「実際に体験し、浄化された水を見ると森林の機能がよく理解できました。」との声

が聞かれました。

最後に間伐体験を行いました。最初に準備体操を行った後、間伐での注意点等を説明し、三班に分かれて山に入りました。ほとんどの生徒がノコギリを使ったことがなく、斜めに切ったり引っかけたりと悪戦苦闘していました。また、生徒達は、



間伐体験

伐った丸太を輪切りにし、記念に持ち帰りました。伐った丸太を輪切りにし、

生徒達からは、「森林の働きや間伐の大切さ等、色々と教えていただきあり

き、仁淀川町の森林づく



のにし、進捗状況に差が出ないよう工程を一つ一つ一緒行っていました。



「ふれあいセンター」

松野南小学校の全児童一人名が目黒緑の少年隊として出席しており、毎年、神事の後に森林教室を行っています。午前中の木工教室では、事前に「金ちゃん工房（OBの木工達人）」から匠の技を受け継ぎ「かっぱの貯金箱」を作成しました。作業時間が一時間弱と短いため、パーツを張り合わせ着色するという単純なもので、松野町等が主催する恒例の滑床山開きの神事が行われました。

四月二六日、足摺宇和海国立公園内にある滑床溪谷で、松野町等が主催する恒例の滑床山開きの神事が行われました。

この山開きには、地元の校と愛媛森林管理署が協定

これ、無かった？（フィールドビンゴ）



を結んでいる遊々の森「わくわくの森」で活動したいと要望があったことから、森林散策をしながら「わくわくの森」まで移動し、ネイチャーゲームを行いました。

「フィールドビンゴ」は、「カモフラージュ」と「フィールドビンゴ」。子どもたちは、こちらが冷や冷やするほどの勢いで

最後は全員クリアし商品

らお母さんにあげる！」と心温まる言葉が聞こえました。子どもたちは、たくさん歩いて、走って、笑って、疲れたことと思えますが、大きくなつて滑床溪谷で過

ごした楽しい時間や森林の素晴らしさ思い出して頂きたいものです。



四月二〇日、地元の四万十市西土佐江川崎で西土佐地域の食材等を集めた「四万十川びらき&春の感謝祭」が開催され、当センターは、木工体験コーナーで参加しました。このイベントは、西土佐ふるさと市組合の主催で、同地域に「道の駅」が開業する二〇一五年を前に、地域食材や地域商品をPRし

ようと初めて企画され、当センターにも参加を要請されたものです。当日は、西土佐地域の食材等約三〇店が出店され、会場周辺ではカヌーの無料体験や屋形船の無料乗船、タケノコ掘り体験等も行われました。



大盛況の木工体験コーナー

当センターのコーナーでは、金ちゃん工房（OBの木工達人）のピンボールビンゴ等の出前ゲームや、動物のストラップ作り等を行いました。両親に連れられた幼児や小学生のグループ等が、クマやカブトムシなどの好きな動物のストラップを作ったり、ゲームを楽しんだり、イベント開催中、当コーナーには、お客さんが途切れることなく訪れ、大盛況でした。

心配された天候にも恵まれ、地域との結びつきが深められた一日となりました。

私が勝ちね（葉っぱジャンケン）



も興味を示す子ども

校の意向を受けて実施しま

今回は、「くまのストラップ」を完成させた子どもたちの中に、周囲の豊かな自然にとっても興味を示す子ども

今年も地域の方々のお陰で笑顔溢れる楽しい堂ヶ森祭となりました。来年が楽しみです。

たび作成し、記念として並べて飾っているという嬉しい声も聞かれました。

「来年もまたここで会おうね。次のストラップの裏の日付は二〇一四・五・五だね。」

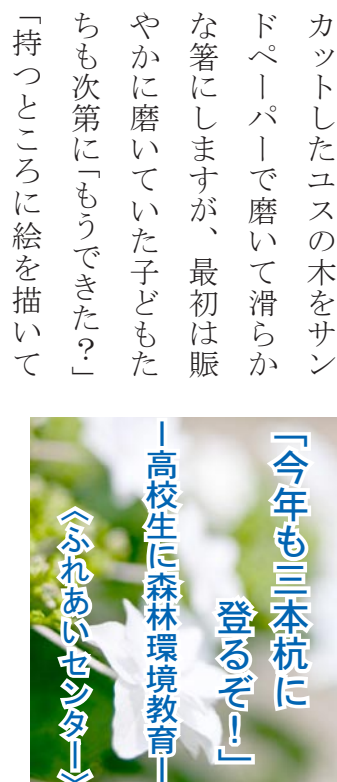
五月五日子供の日、堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催されました。

木工教室は毎回好評の「くまのストラップ」作りです。参加者の中からは、毎年の堂ヶ森祭に参加する

「一番ギザギザが多いのは？」「一番たくさんかじられてるのは？」と聞く



爽やかな青空のもと、もたたちがいたので、急遽、ち投げやちびっこ相撲、おんな相撲、バナナのたたき売り、そして当センター青空森林教室が行われ、普段は静かな地蔵堂前がたくさんの人々で賑わいました。



「変わった形や色、虫食い、皆と違う葉っぱを一枚探しておいで」というと、一斉に林内を駆け回り、五分の制限時間をオーバーしながら一生懸命探していました。

「変わった形や色、虫食い、皆と違う葉っぱを一枚探しておいで」というと、一斉に林内を駆け回り、五分の制限時間をオーバーしながら一生懸命探していました。

樹木の説明



した。

当日の天候は、絶好の登山日和で山の空気を吸い込んで元氣よく登山を開始しました。

登山道では、職員から樹木の名前や特徴、ニホンジカによる樹木の剥皮害についての説明を受けながら登って行きました。

ブナの群生林では、植生

が四国南西での限界地域で

あること、稜線を挟んで一つの山にありながら、温帯林の滑床側と暖帯林の黒尊側がある珍しい山であることなどを説明しました。

生徒からは、「木の種類やシカの食害等について深く知ることができました。」との感想があり、ふれあいセンターも学校の意向に沿えることができました。



ニホンジカ食害防止ネット



香南市、南国市の六団体の共催により、白髪山(標高一七六九m)山頂西側南面にニホンジカ食害防止ネット(防護柵)、カヤハゲ(標高一七二〇m)周辺に菰を使った表土の流出防止柵、白髪山登山道中腹周辺でラス巻きを実施しました。

四月二十八日、高知中部森林管理署、「三嶺の森をまもるみんなの会」(依光良三代表)、高知県、香美市、

三嶺地区におけるニホンジカの被害は依然として広い範囲で深刻な状態が続いていることから、ポランテティアの協力を得て、被害の拡大防止のための活動を平成一九年から実施しており、今回が一八回目となります。

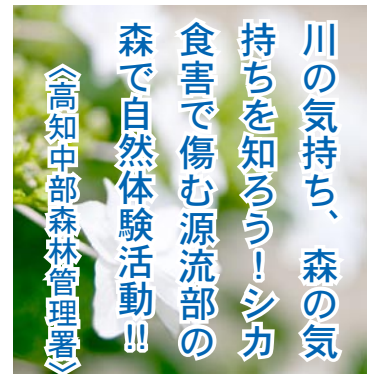
当日は「三嶺の森をまもるみんなの会」の会員や地元香美市職員、高知工科大学、高知大学の学生、一般参加者によるポランテティアの協力と四国森林管理局及び当署職員を合わせた約一五〇名が参加しました。

参加者は一班に分かれて、一班から五班は白髪山山頂西側南面に総延長五〇〇mの防護柵、六班から九班が白髪山登山道中腹でラス巻きを行い、約二九〇本巻きしてもらいました。一班は高知大学教授石川慎吾先生の指導で去年一〇月一四日カヤハゲ周辺に実施した菰張りの状況調査と新たな菰張りを行いました。一班は依光先生を中心に、防護柵の中に試験区域を設け、ササの移植を行い

ました。

防護柵は、風等で倒れる恐れもあることから、今後は今回の参加者や一般の方々にも協力をいただきながら、設置後の状況を見守って行きたいと思いません。

また、石川慎吾先生から菰張りの状況について話があり、菰による表土の流出防止は難しいかもしれない、今後は「土砂流出防止マット」の敷設も考えるべきとの指導がありました。今後もボランティア団体等のご協力をいただきながら、三嶺周辺の被害対策に努めたいと考えています。



五月一二日、一般募集、ボランティア団体関係者、当署職員合せて約八〇名が参加し、ニホンジカの食害被害を受けている三嶺山系、「みやびの丘」(別府山国有林内)で、植生を回復させるため、シカ食害防備防護柵の中にササを移植しました。

この活動は当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」、「物部川21世紀の森と水の会」、高知新聞社の共催により一般ボランティアを募

集し実施しました。

一般ボランティアの参加者はバス三台に分乗し、移動中、バスの中で、環境学習の一環として、DVD鑑賞、物部川流域の自然環境を観察しながら現地に着後、当署署長をはじめ、関係者からのあいさつを受けました。



ササの移植の様子

参加者は四班に分かれ、

「みやびの丘」へ向かう途中、団体関係者から、ニホンジカ食害状況について、説明を受けるとともに、ササを掘り取りました。

この間、団体関係者及び当署職員が先発隊として、みやびの丘でニホンジカ食害防備防護柵(周囲約一〇〇m)を設置しました。

がありました。

参加者は「みやびの丘」

一般参加者の中には、高知工科大の学生もおり、閉会式のときには、「私は関東出身であり、周りには自然が少なく、あまり、山の自然に接することがなかった。今回ボランティア活動に参加して、山の自然にふれることができた。また、

ニホンジカの食害を受け、

移動後、シカ食害防備防護柵の中にササを移植し、心地よい汗を流しました。移植終了後、「三嶺の森をまもるみんなの会」の依光良三代表から、白髪山周辺(国有林)の天然林の環境について、現状と問題点について説明

今後、ボランティア団体の協力を得ながら、三嶺周辺のニホンジカ食害防備につとめていきたいと考えています。